何がおもしろかったか

開学記念祭に最も多く参加している姫路分校自治会で行なったアンケートの結果（他はやっていない）は実行委員会の総括を裏付けるものであった。何がおもしろかったかという項目の順序は次の通りである。

一、講演会
二、市中デモ
三、映画会
四、野外パーティ
五、サークル発表会
六、課外ゼミナール

特に印象的だったものは？という問に対しては、映画「戦艦ポチョムキン」と講演会、特に末川博先生の講演という答が圧倒的であった。

今年の取り組みについて

本年度開学記念祭実行委員長

星野和子

昭和三十五年度開学記念祭は、安保条約批准段階のめまぐるしい社会情勢の中で迎えるわけです、がこういった情勢の中で私たちの学園の自治に対してさまざまな圧迫干渉が加えられていることは、黒岩問題、学長選の斗いの中ですでに明らかとなっています。また、放送、新聞等マス・コミによるイデオロギー攻勢が学園の中にも押し寄せてきています。私たちはこういった圧迫をはねのけて、学園の自治、学問の自由を守ってきたわけですが、ここに学生もまた学園構成メンバーとして学園運営に参加していく可能性も萌芽的にあらわれてきています。したがって、文化活動においても全教職員、全学生の協力によって盛大に行われるべきであると考え、さらに民主的な学園運営の促進に文化的立場から努力すべきであると考えます。また、現在の政治権力に迫害されているすぐれた文化を発掘し、世に広く公開する機会ともし、日頃接しえない学問、文化と接するために講演会映画会を行いたいと思います。現在のところ、中国映画「祝福」や、「人間の壁」の上映、砂川裁判の伊達秋雄裁判官、元東大総長南原繁氏、「日本女性史」の作者であり歴史学者の井上清氏の講演

会などを企画しています。

さらに今年の場合特に力を入れたいのは、サークル創造活動の活潑化ということです。昨年度の開学記念祭をふり返ってみると、やはり全体として「創造」活動が不振であったと思うわけですが、今回はこのことに留意して、サークル発表会、展示、課外ゼミナールに独創性を発揮すべきであると考えます。文化サークルは一年間の活動の成果を開学記念祭に結集し、さらにそれをステップとして、以後の活動を行なってほしいと思います。すでに出品ないしは出場を申込んでいるサークルは、三十以上ありますが、今後記念祭までの準備活動としては、各サークルは早急にテーマを定めて、それを現在の学生の要求関心の方向や、社会の情勢とからみ合せた上でどのような視点でとらえるべきかを検討し、そういったことを全学生にアッピールしていく必要があると思います。ともすれば自己閉鎖的になりがちであるサークル活動を全学生のものとするには、自分たちのサークルが追求していくものが何であるかを討議し、学生に共感を呼ぶような形にアッピールして行き、さらに合評会を大衆的に組織して批評活動を活潑にしていくことも必要であると考えます。その他、これまで見落されがちであった地域文化の発展という観点から神戸市民に大学を解放し、同時に学外民主サークル、青年団体との交流も考えて行きたいと思います。

神戸大学は「たこの足大学」の汚名返上のため数年前より学舎統合の気運が高まり、統一した記念祭も過去三回大きな成果をおさめて、学舎統合への学生の大きな要求をあらわしてきました。県立医大、農大の国立移管の問題と共に、最近県会でも論議されていますが、学舎統合によって名実共に総合大学として発展することは等しく全教職員、全学生の望むところであり、ここに四度統一開学記念祭を迎えるにあたり、学舎統合への学生の要求を盛り上げると共にふだん不充分である学内文化の交流、全学自治会に加盟することになった第二課程との文化交流を行い、学舎統合実現の促進に少しでも役に立てたら良いと思います。

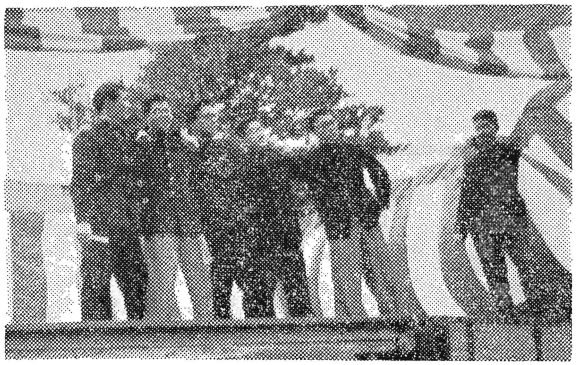
以上のような諸々の方針、意義の上に立って検討した結果、今回の開学記念祭は五月十二日前夜祭を皮切りに十三、十四、十五日の三日間、六甲台学舎において行うことを、去る一月二十三日に行われた昭和三十四年度後期第三回拡大中央委員会において満場一致で決定しました。なお日程の決定は、学校、教職組、全学自治会の三者中央連絡協議会で検討の後最終的には協議会で決定するわけですがここで考えておかなければならないことはこういった学校全体に関係したことがらが協議会で独断的に決定されるようなことがあってはならないということであり、全学的な、学生、教職員共に関係したことについては各分校、学部教授会が十分な検討を加え、協議会にその意見が反映されていくべきであると考えます。したがって今回の日程の決定も各教授会において、私たちが要求している日程についてその意義必要性を充分討議されるよう、各教授会へ申入れを行なっています。では何故この先に述べた日程を必要としているかということについて述べてみたいと思います。まず第一の理由としては、創立記念日の十五日が今年は日曜日であるが、十五日を第一日とする場合、十四日に前夜祭を行うことは不可能であるということ。今年の前夜祭は神戸国際会館で盛大に行う予定で、国際会館へも早くから交渉、五月十二日に借用申込みを行い、すでに契約している。なお国際会館使用料は、平日と土曜日では一万円の差があり財政的にも土曜日には出来ない。また、姫路分校から七百人の学生が来神するが、汽車も土曜日には非常に混雑するので貸切りも出来ない、そのため分校生の負担が大きくなり来神が困難となることも予想されること。

第二の理由としては今回は昨年度ふるわなかったサークル発表に力を入れてたい上に、サークル発表会（講堂関係）を申込んでいるサークルはすでに約二十ある。したがってどうしても三日間は必要であるということ。

第三に、前夜祭を除いて三日間の中、土曜、日曜を使いたい。学生も授業にさしつかえないから参加しやすいし、一般市民の参加も可能であるということ。

以上のことから、十三、十四、十五日の三日間が必要である。また開学記念日の十五日は前年休日となるのに、今年は日曜日であるから十三日をふりかえて休日とし、記念式典を行う日としてほしい、ということを教授会に要請していきたいと考えます。

今年もまた六甲台において華やかに、しかも充実した開学記念祭が持てるよう、学校、教職組、学生自治会の協力のもとに全員一致して記念祭に取組んでいきたいと考えます。



園遊会の即興舞台

昭和三十五年度開学記念祭参加
文芸作品募集規定

一、作　品　小説――四〇〇字詰原稿用紙一〇〇枚以内
　　詩――制限なし
一、締　切　三十五年三月三十一日（当日消印有効）
一、送り先　神戸市東灘区御影町
　　神戸大学御影分校内
　　文学部資料室気付
　　文学部自治会文芸作品募集係
一、応募資格　三十五年三月一日現在、神戸大学学生であること。
一、選考委員　猪野謙二先生
　　小島輝正先生
一、賞　金　小説入選　一編　佳作　二〇〇〇円
　　詩　入選　一編　三〇〇〇円
　　佳作　一〇〇〇円
一、主　催　神戸大学文学部学生自治会
一、発　表　神戸大学総合雑誌「展望」第二号（五月上旬発行）